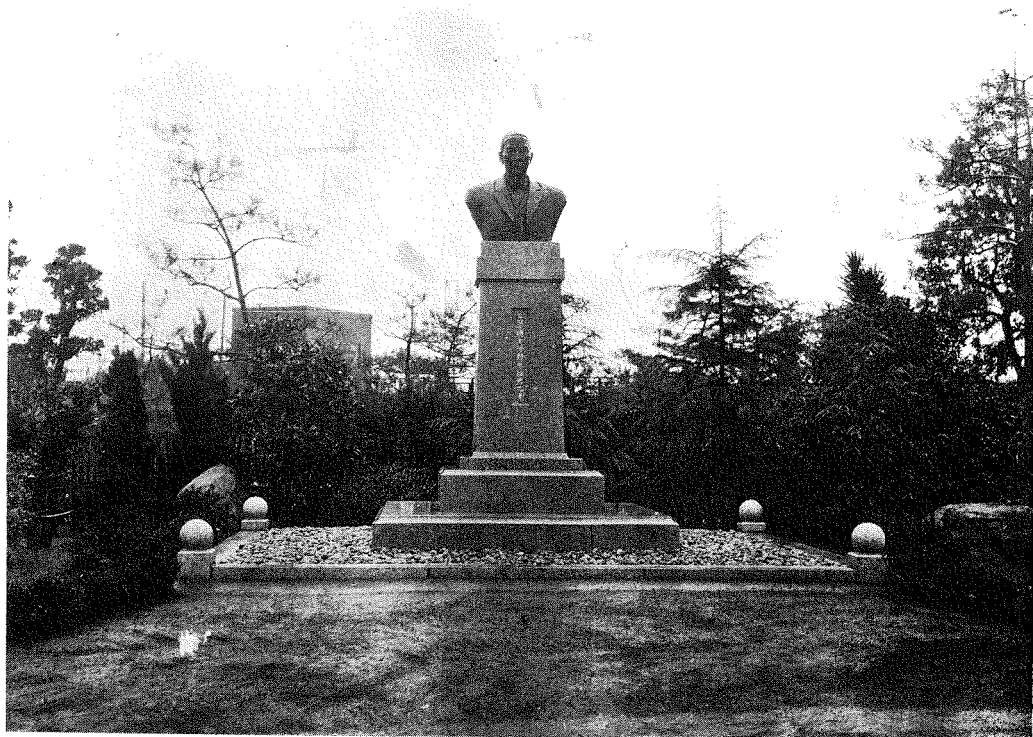


沖野・坂本兩博士の記念像成る

大阪港をして今日の殷盛に赴かしめ又琵琶湖及淀川沿岸民をして洪水の憂患を除き益々利水の途を講ぜしむるに至つた工學博士故沖野忠雄、工學博士坂本助太郎兩氏の長年月に亘る不撓不屈の献身的努力による功績を記念する爲に、大橋房太郎、高西敬義、福留並喜、三輪周藏、山内喜之助其他諸氏の發起に依り、兩博士の記念像を建設する計畫が進められてゐたが、その記念像は沖野博士没後13年及び坂本博士の還暦に當る去昭和10年兩博士と最も縁古深き淀川沿岸に建設せられ、12月14日竣功除幕式が舉行された。

當日の出席者は沖野博士未亡人、坂本博士を初め名士約200名、午前10時より北河内郡枚方町淀川堤防上の坂本博士の除幕式、午前11時半より大阪市東淀川区長柄濱通内務省毛馬閘門地内の沖野博士の除幕式を行つた。高西大阪土木出張所長委員長として挨拶を述べ山内神戸土木出張所

大阪市東淀川区長柄濱通毛馬閘門地内の沖野博士記念像。





大阪府北河内郡枚方町淀川堤防の坂本博士記念像。

長が沖野・坂本兩家への記念品を贈呈し、知事、市長、淀川関係者の祝辭あり式後祝宴に移つたが、八十四歳の井上清太郎技師を初め淀川関係の技術者が多數集り近來の盛儀であつた。

因に沖野博士は人も知る後年の内務技監、明治26年政府雇工師蘭人デレーク氏の大阪築港計畫意見書に對し大修正を加へ其根幹を樹立した人で、明治23年より44年まで21年間淀川改修工事の任に當り、その水源たる琵琶湖水位の調節に成功し湖岸數千町歩の耕作を可能ならしめ、沿川の水害防禦に献身せられた。土木學會の追悼の辭の一節に「淀川改修工事の如き設計の至難なるに拘らず外人工師の援助を得ずして其完成を見るを得たるは博士晩年の功に歸せざるべからず、大阪築港の如き又博士の閱歷中光輝を放たしむるものゝ一なり」とあるも故なきではない。博士が内務技監に榮進せられた明治44年、大阪を去るに當つて市民は當時博士の功勞に酬るんとしたが常に身を持つること廉潔であつた博士は功を譲り責を執り遂に固辭して受けなかつたと傳へられる。

また坂本博士は明治33年より前後三回二十有三年間淀川關係事業に職を奉じ、淀川治水の爲に半生の心血を注がれた功勞者であることは餘りに知れ涉つてゐる事實だ。